

●編集に携わった人々

●代表 矢ヶ崎典隆 日本大学教授 坂上 康俊 九州大学教授 谷口 将紀 東京大学教授
●顧問 小原 友行 福山大学教授 五味 文彦 東京大学名誉教授 戸波 江二 早稲田大学名誉教授

阿部 哲久 広島大学附属中学校教諭 島津 弘 立正大学教授 播磨 大作 神戸市立住吉中学校教諭
荒井 正剛 東京学芸大学教授 白川 景子 高知大学講師 東野 茂樹 葛飾区立水元中学校主幹教諭
五十嵐辰博 千葉大学教育学部附属中学校教諭 菅谷 昌弘 札幌市立平岡緑中学校教諭 平松 義樹 愛媛大学名誉教授
石原 光 福山市立東朋中学校教諭 薄田 和弥 札幌市立篠路中学校教諭 藤瀬 泰司 熊本大学准教授
板井 孝司 吉川市立南中学校教諭 鈴木 拓磨 墨田区立両国中学校主任教諭 藤田 淳 港区立高松中学校主幹教諭
伊藤 裕康 香川大学教授 関戸 明子 群馬大学教授 星野 勇悟 大東市立四条小学校首席
李 洪俊 大阪市立南港北中学校教諭 関 裕幸 東京都立小石川中等教育学校主幹教諭 眞壁 佑輔 札幌市立前田中学校教諭
入子 彰子 文京区立音羽中学校指導教諭 高田 孝雄 足立区立東綾瀬中学校指導教諭 松澤 克行 東京大学史料編纂所准教授
上園 悦史 東京学芸大学附属竹早中学校教諭 高野 信 前都立市立明健中学校校長 松田 敏洋 宮崎市立本郷中学校教諭
江間 史明 山形大学教授 高橋 晶 千葉大学教育学部附属中学校教諭 松原 宏 東京大学教授
岡部 誠 板橋区立赤塚第一中学校副校長 高橋 慎一朗 東京大学史料編纂所教授 三浦 浩 会津坂下町立坂下中学校教諭
岡本 太一 高槻市立城南中学校指導教諭 高山 知機 世田谷区立駒留中学校校長 溝口 和宏 鹿児島大学教授
鬼塚 拓 宮崎大学教育学部附属中学校教諭 田崎 義久 東京学芸大学附属小金井中学校教諭 道場 康智 福井市足羽第一中学校教諭
小野 大助 福山市立城南中学校教諭 田中 敏彦 高知中学校副校長 峯 明秀 大阪教育大学教授
柏原 正志 福山市立松永中学校教諭 谷藤 良昭 千葉市立稲毛高等学校附属中学校教諭 毛利 透 京都大学教授
勝田 俊輔 東京大学教授 丹 暁子 足立区立第七中学校主任教諭 森川 禎彦 福井大学教育学部附属義務教育学校教諭
唐木 清志 筑波大学教授 千葉 功 学習院大学教授 森山 幸一 福岡市立金武中学校教諭
河野真理子 早稲田大学教授 千葉 一晶 中野区立第七中学校主幹教諭 諸富 徹 京都大学教授
木村 博一 広島大学教授 坪田 益美 東北学院大学准教授 山崎 祥雄 慶應義塾中等部教諭
草原 和博 広島大学教授 寺本 誠 お茶の水女子大学附属中学校教諭 山田 秀和 岡山大学准教授
栗原 久 東洋大学教授 東方 広海 福岡市立吉塚中学校主幹教諭 山本 博文 東京大学史料編纂所教授
呉羽 正昭 筑波大学教授 豊嶋 啓司 福岡教育大学教授 湯澤 規子 法政大学教授
兒玉 修 宮崎大学名誉教授 土肥大次郎 長崎大学准教授 吉田圭一郎 横浜国立大学教授
近藤沙耶香 江戸川区立小岩第五中学校教諭 内藤 圭太 埼玉大学教育学部附属中学校教諭 吉水 裕也 兵庫教育大学副学長
今野日出晴 岩手大学教授 中尾 学 台東区立上野中学校主任教諭 渡邊 頼史 福山市立城南中学校教諭
佐川 英治 東京大学教授 中北 浩爾 一橋大学教授 鰐淵 翔大 札幌市立栄町中学校教諭
佐久間敦史 大阪教育大学准教授 中平 一義 上越教育大学准教授 田中 良広 帝京平成大学教授
迫 眞也 広島市立井口台中学校教諭 新坂 大輔 清瀬市立清瀬第二中学校主任教諭 道面 美紀 墨田区立本所中学校指導教諭
佐々木隆光 神戸市立唐櫃中学校教諭 西川路蘭奈 新宿区立新宿中学校教諭 ほか5名
佐々木智章 早稲田大学高等学院教諭 西川 広毅 国富町立八代中学校教諭 東京書籍株式会社
佐藤 全敏 東京女子大学教授 蓮沼 圭 台東区立桜橋中学校主任教諭 ●色彩デザインに関する編集協力
佐藤 元基 札幌市立厚別北中学校主幹教諭 長谷川義博 山梨大学教授 色覚問題研究グループぱすてる
重 秀雄 広島市立東原中学校教諭 服部 一秀 山梨大学教授
篠塚 昭司 東京学芸大学附属世田谷中学校教諭 濱田 幸伸 高知大学教育学部附属中学校教諭
島 珠美 足立区立鹿浜菜の花中学校主任教諭

●単元構成と配当授業時数

教科書の構成・内容	学習指導 要領の内容	教科書 該当ページ	配当 時数
持続可能な社会の実現に向けて		巻頭3-1	1
第1編 世界と日本の姿	A- (1)	6-32	13
第1章 世界の姿	A- (1)①	6-19	7 ○
第2章 日本の姿	A- (1)②	20-32	6 ○
第2編 世界のさまざまな地域	B- (1), (2)	33-139	39
第1章 世界各地の人々の生活と環境	B- (1)	33-53	10 ○
第2章 世界の諸地域	B- (2)	54-139	29
1節 アジア州	B- (2)①	56-73	(7) ○
2節 ヨーロッパ州	B- (2)②	74-87	(5) ○
3節 アフリカ州	B- (2)③	88-99	(4) ○
4節 北アメリカ州	B- (2)④	100-113	(5) ○
5節 南アメリカ州	B- (2)⑤	114-125	(4) ○
6節 オセアニア州	B- (2)⑥	126-137	(4) ○

※配当時数に「○」がある単元の時数には、単元の導入の活動やまとめの活動に配当している時間を含めています。
※予備時間は、生徒の自主的な学習活動の時間や評価などに充てる時間です。

教科書の構成・内容	学習指導 要領の内容	教科書 該当ページ	配当 時数
第3編 日本のさまざまな地域	C- (1), (2), (3), (4)	140-281	57
第1章 地域調査の手法	C- (1)	140-155	6
第2章 日本の地域的特色と地域区分	C- (2)	156-182	11 ○
第3章 日本の諸地域	C- (3)	183-269	35
1節 九州地方	C- (3)①	185-196	(5) ○
2節 中国・四国地方	C- (3)④	197-208	(5) ○
3節 近畿地方	C- (3)②	209-220	(5) ○
4節 中部地方	C- (3)③	221-232	(5) ○
5節 関東地方	C- (3)④	233-244	(5) ○
6節 東北地方	C- (3)⑤	245-256	(5) ○
7節 北海道地方	C- (3)①	257-268	(5) ○
第4章 地域の在り方	C- (4)	270-281	5
		予備時間	5
		合計	115

●特別支援教育に関する校閲
田中 良広 帝京平成大学教授
道面 美紀 墨田区立本所中学校指導教諭
ほか5名
東京書籍株式会社
●色彩デザインに関する編集協力
色覚問題研究グループぱすてる

新しい社会 地理



『新しい社会』の表紙を
紹介する動画を公開し
ています。
ぜひご覧ください。



東京書籍

新しい社会 地理



東京書籍



内容解説資料

この資料は、令和3年度用中学校
教科書の内容解説資料として、一
般社団法人教科書協会「教科書発
行者行動規範」に則っております。



東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7368(社会編集部) Fax:03-5390-6015
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 教育情報サイト 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

日本と世界を読み解く教科書

矢ヶ崎 典隆



Profile

矢ヶ崎 典隆(やがさき のりたか)
日本大学教授、東京学芸大学名誉教授
1952年生。カリフォルニア大学バークレー校大学院修了。
博士(地理学)、専門地域調査士

■著書／『移民社会アメリカの記憶と継承
—移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ—』
『地誌学概論 改訂版』ほか。

グローバル化と情報化は世界を大きく変えつつあります。情報通信技術や交通運輸手段のめざましい発達により、世界の諸地域は結び付きを強め、たがいに複雑にからみ合っています。私たちは世界各地の多様な自然や人々の生活・文化、政治や経済、災害や事件に関する情報を容易に入手できます。気軽に海外旅行に出かけることができますし、外国から日本を訪れる観光客は増加する一方です。

すなわち、私たちの日常生活は、直接的にも間接的にも、世界各地との結び付きを基盤として成り立っています。人類が地球という限られた資源と空間を分け合いながら、平和に暮らしていくためには、地域を正確に認識し、世界中の人々と交流して相互理解を深め、多様性を尊重する精神が必要になります。

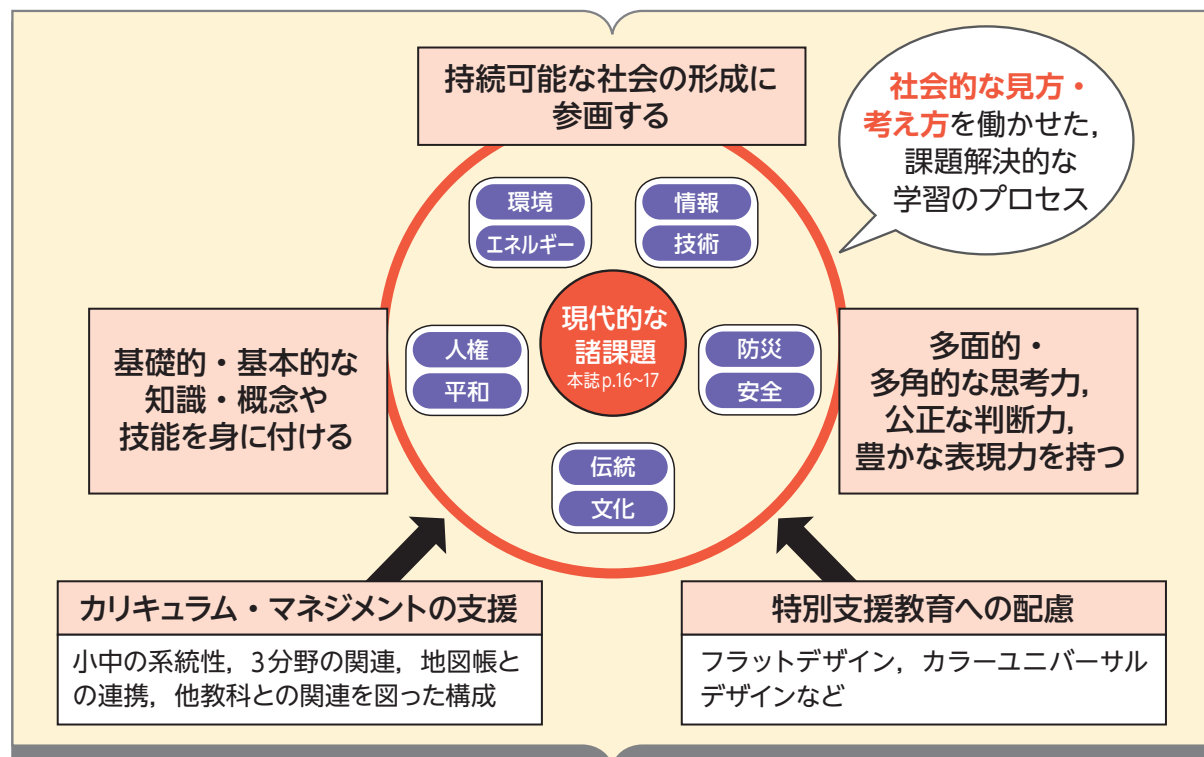
また、私たち人類は様々な地球的な課題に直面しています。環

境問題、人口問題、食料・水問題、貧困や格差の問題など、解決すべき課題が山積しています。同時に、地震、火山の噴火、洪水など、突発的な災害に対処するために、自然の仕組みを理解し、身近な環境の特徴を認識し、防災や減災の措置を講じることは不可欠です。

現代の世界を理解し、様々な課題を解決し、持続可能な社会を実現するために、地理の重要性はますます高まっています。地理的知識と地理的技能を活用することにより、ローカルからグローバルまで、バランスよく地域を認識できます。そして、「なぜ」という問いを立て、それに答える作業を通して、課題についてさまざまな視角から柔軟に考える力が育成されます。私たち編集委員は、熱い思いと自信を持ってこの教科書を編集しました。この教科書が活用されることを願っています。

教科書が目指すもの 豊かな学びが未来を拓く

「主体的・対話的で深い学び」を通じて、
持続可能な社会の実現に向けて
「今を問い、未来をともに拓く力」を育てます。



「問い」を軸に

単元のまとまりを重視した紙面構成 単元の「構造化」で課題解決的な学習を実現！

1 課題をつかむ

導入

●単元の「導入の活動」で、単元全体を貫く「探究課題」を立て、課題をつかみます。

本誌p.4～5

2 課題を追究する

展開

●1単位時間の授業ごとの「学習課題」と「チェック＆トライ」を軸に課題を追究します。

本誌p.6～7

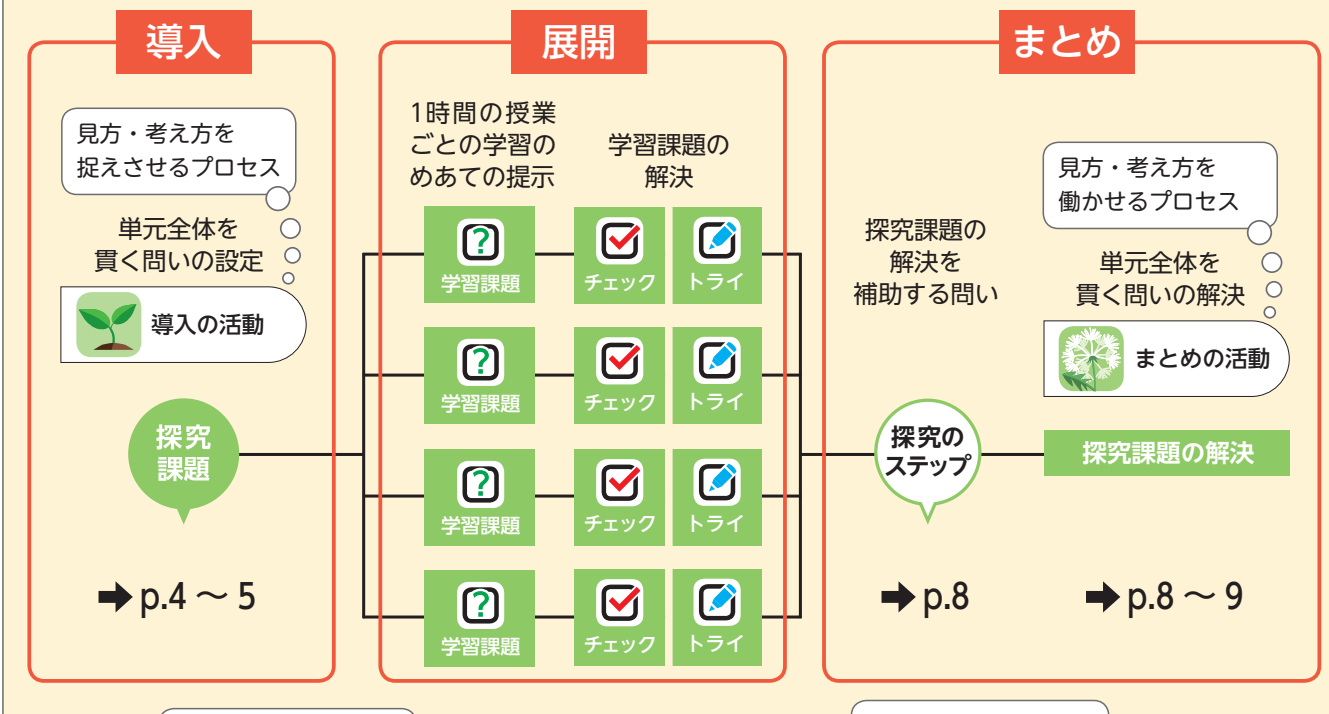
3 課題を解決する

まとめ

●探究課題の解決を補助する「探究のステップ」を設けました。
●単元の「まとめの活動」で探究課題を解決します。

本誌p.8～9

「問い」を軸にした単元の「構造化」による課題解決的な学習 ▶ 本誌p.10～11



1時間の「導入の活動」を通して、単元を貫く「探究課題」を立てます。



「探究課題」を解決する活動の前に、「探究のステップ」に取り組みましょう。

小学校を振り返り課題をつかむ導入の活動

学習活動の流れが イメージできるアイコン



導入の活動

基礎・基本の
まとめ

まとめの活動

小学校の 振り返り

- 小学校教科書に掲載した資料に「**小学校マーク**」を掲載しました。
- 小学校社会科で学習した用語は「**小学校の社会で習った『ことば』**」として付しました。

見通しを持たせる まとめの活動の予告

導入の活動とリンクしたまとめの活動を予告することで、単元の見通しを持たせます。

第2章

日本の地域的特色と地域区分



導入の活動

日本がどのような国かイメージしよう

近年、日本を訪れる外国人の観光客が増え続けています。もし、あなたが初めて日本に来た外国人に、「日本はどのような特色を持った国ですか？」と聞かれたら何と答えるでしょうか。

あおいさんとゆうまさんは、自分が日本に持っているイメージから、それぞれ次のように答えました。



日本は自動車が多く、建物が密集している、緑が少ない国です。

小



たくさんの島があって、水田も広がる緑豊かな国です。

小

二人の答えを聞いた外国人は、「日本はいったいどのような国なのだろうか。」という疑問を持ったまま帰国してしまいました。小学校での学習をふり返って、あなたならどのように答えるか、考えてみましょう。

小学校の社会で習った**ことば**は 地形 等高線 気候 季節風 四季 交通 資源 工業地域・工業地帯(1) ニュータウン(2) 自然災害 防災 復旧・復興 ハザードマップ 産業 加工貿易 現地生産 養殖・栽培漁業 ビニールハウス 食料自給率

小学校では、左のようなことを学習しましたね。それぞれがどのような意味か、思い出してみましょう。



156 ① 瀬戸内工業地域(岡山県倉敷市)

小



② 丘の斜面に広がる町(東京都八王子市)

小

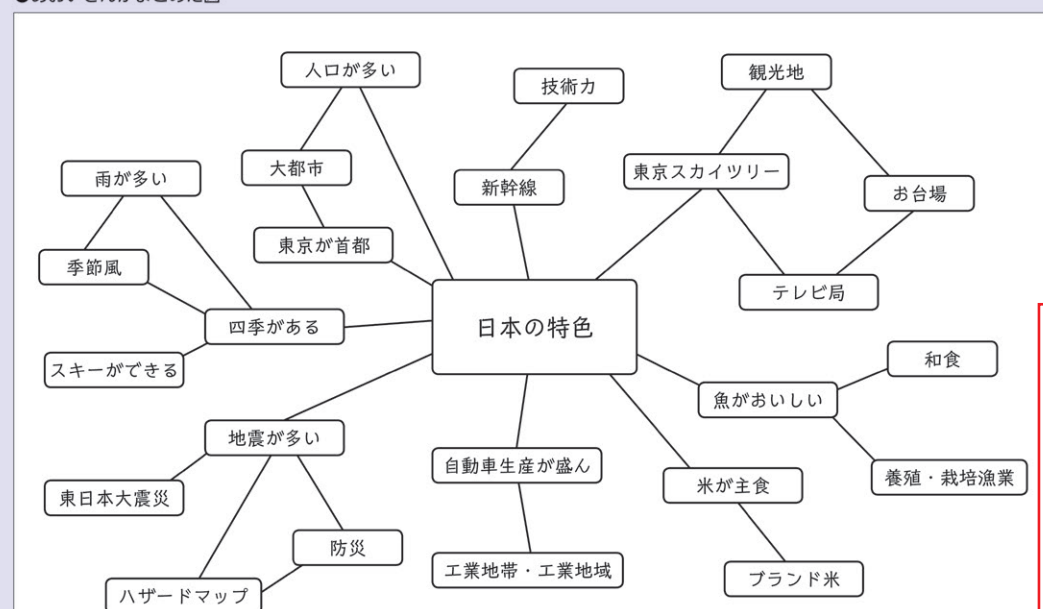
対話的な学習を实践！ 新コーナー「みんなでチャレンジ」

- 小集団の協働的な活動のコーナーとして「**みんなでチャレンジ**」を新設し、対話的な授業を効果的に実践できます。

みんなでチャレンジ

- (1)左ページで思い出した小学校での学習を中心に、自分が暮らしている地域、旅行などで行ったことがある地域から、「日本はどのような特色を持った国か」という疑問に対する説明に使えるような内容を、できるだけたくさん思い出しましょう。
- (2)下の図を参考に、「日本の特色」を中心に置いて、思い出した内容や、そこから新しく思いついた内容をつながりながら書きこみましょう。
- (3)図が広がってきたら、書きこんだ内容を大きくながめて、それぞれの特色が日本の中でどのような地域に、どのように分布しているかを考えましょう。

●あおいさんがまとめた図



こうして、日本の特色を書き出してみると、左ページのあおいさんとゆうまさんの答えが、日本の一部だけを紹介していることが分かります。日本には、さまざまな地域的特色があり、一言では説明できません。この章では、日本にこうしたさまざまな地域的特色がある理由を考えていきます。単元のまとめでは、日本の特色を正しく理解せずに帰国してしまった外国人や、初めて日本に来た外国人に、日本のさまざまな地域的特色を伝える手紙を書くので、そのつもりで学習を進めましょう。



見方・考え方

日本の特色をとらえるには、導入の活動で考えた特色が、どの地域にどのように分布しているかという観点で考えていく必要があります。この章では、「地域」と「分布」に着目して学習しましょう。



日本の特色は大きくまとめられそうだね。

よいところに気づきましたね。この章では「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の四つのまとまりで、学習していきましょう。



探究課題

日本には、なぜさまざまな地域的特色があるのでしょうか。

単元で働かせる「見方・考え方」を 導入部で提示

- 単元の導入部に「**見方・考え方コーナー**」を設け、学習指導要領で示されている「見方・考え方」を学習の導入でしっかり捉えさせることができます。

導入の活動を通して立てる「探究課題」

- 単元全体を貫く「探究課題」**を、1時間の導入の活動を通して設定します。
- 「探究課題」を立てる活動で単元全体の学習に見通しを持たせ、生徒の**主体的な学習活動を促します**。

「見方・考え方」を働かせ学びを深める本文ページ

興味・関心を高める 導入資料

学習意欲が高まる魅力的な資料を大きく掲載し、生徒の授業への興味・関心を引き出します。

1 時間の学習の 見通しを持たせる 「学習課題」

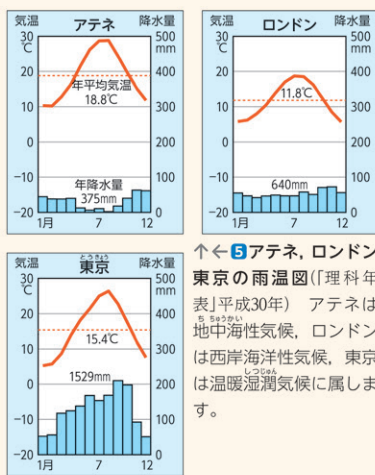
●1時間の学習で追究する「**学習課題**」を示し、生徒が見通しをもって主体的に学習を進められます。

必要な技能が効果的に 身に付く活動コーナー を新設

情報を集め、読み取り、まとめる技能を身に付ける「**集める**」、「**読み取る**」、「**まとめる**」コーナーを新設しました。



2 気候から見た 日本の特色



36から46ページや、地図帳の資料から、東京より年降水量の多い外国の都市を探し、その都市の場所や気候を説明しましょう。

読んで分かる本文

事象を捉えやすく**因果関係**が分かりやすい、平易な記述です。

日本の気候にはどのような特色があり、地域によってどのようなちがいがあのでしょうか。

日本が属する 温帯

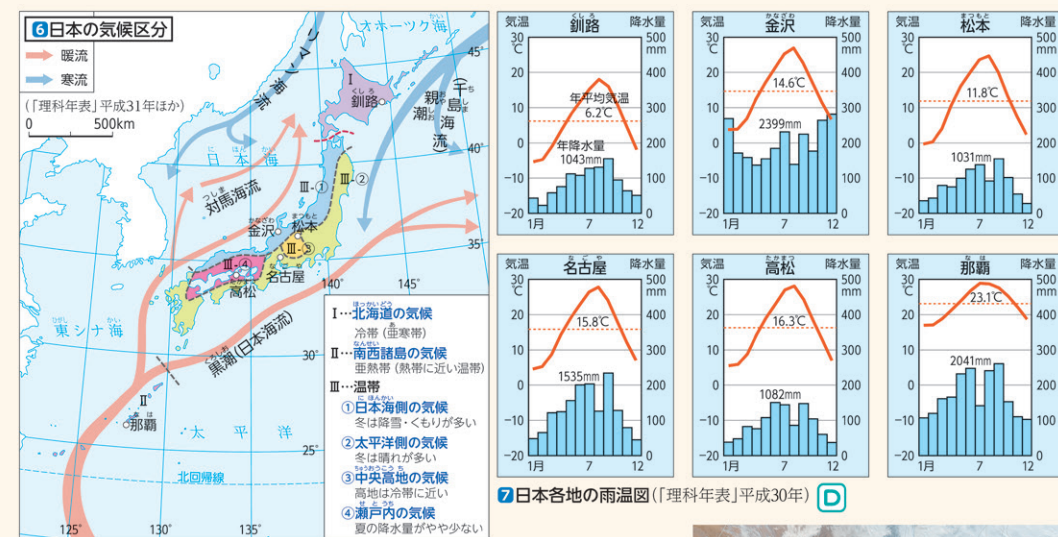
温帯は、年間を通じた気温と降水量の変化のちがいから、三つの気候区に分かれます。地中海性気候は、夏はほとんど雨が降らずに乾燥し、冬に雨や雪などの降水があるのが特徴です。西岸海洋性気候は、緯度が高いわりに冬が暖かく、一年を通じて降水があります。温暖湿润気候は、主に大陸の東岸に見られ、一年の中での降水量や気温の変化が大きく、温帯の中でも特に四季がはっきりしています。日本列島は、広い範囲が温暖湿润気候に属しています。

ユーラシア大陸と太平洋の間に位置する日本列島は、太平洋からふきこむ、暖かい湿気を大量にふくんだ夏の季節風(モンスーン)と、シベリアからふきこむ、冷たい冬の季節風の影響を強く受けます。また、天候をくずす低気圧や前線が列島の上を移動するため、年間の降水量が多くなります。さらに、東アジアでは、梅雨という降水量の多い時期も見られます。夏から秋にかけては、赤道の北の地域で発生して北上した台風や熱帯低気圧が、日本列島に風水害をもたらすこともあります。

理科：日本の天気と季節風 ▶

紙面レイアウトの改善で 資料をより大きく掲載！

●レイアウトの改善で、資料の掲載部分の面積を約10%拡大。本文の理解を助ける資料がより大きくなりました。



地域によって異なる日本の気候
南北に長い日本列島は、地域によって気候が大きく異なります。冬でも気温が高く、降水量が多い南西諸島や小笠原諸島の気候は、温帯の中で亜熱帯ともよばれ、沿岸にはさんご礁が広がっています。一方、北海道は梅雨がなく、年間の降水量も少ないうえに、冬の気温がかなり低いため、冷帯(亜寒帯)に属します。

日本列島は、中央の山脈を境にして、太平洋側と日本海側に大きく分けられ、特に冬の天候が異なります。シベリア上空の冷たくかわいた空気は、季節風になって暖流の対馬海流が流れる日本海で水蒸気を大量にふくみ、日本海側の地域に雨や雪を降らせます。中央の山脈をこえた季節風は水蒸気が少ないため、太平洋側ではかわいた風がふいて晴天が続きます。

瀬戸内は、中国山地と四国山地にはさまれ、太平洋や日本海からの水蒸気が届きにくいいため、降水量が少ない地域です。夏に干ばつが起こりやすく、稲作などに使う水を確保するために、古くからため池が造られてきました。中部地方の中央高地は、標高が高く山に囲まれているため、年間を通して気温が低く、降水量が少ない地域です。中央高地では、特に夜間や冬の気温が低いため、昼と夜、夏と冬の気温差が大きくなります。

日本列島が属している気候帯や気候区を、本文からぬき出しましょう。

日本海側の気候と太平洋側の気候とのちがいを、気温や降水量に着目して説明しましょう。

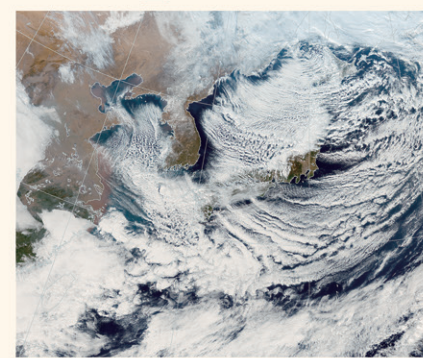
導入 → 展開 → まとめ

本誌 p.4~5

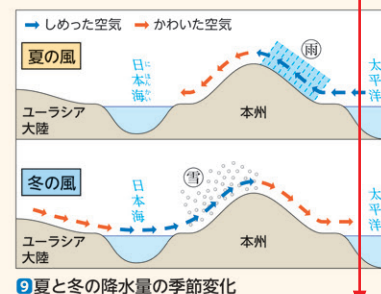
本誌 p.8~9

「深い学び」を 効果的に実現する 「見方・考え方 コーナー」

●『地理的な見方・考え方』を働かせ、学びを深められる場面に、「**見方・考え方コーナー**」を新設しました。



8 冬の衛星画像 (2017年12月12日) (気象庁資料)



9 夏と冬の降水量の季節変化

見方・考え方
イヌイットの人々や、サヘルやサモアに暮らす人々が8月の東京に来たら、どのような感想を持つか、それぞれが住む場所の気候に注目して予想しましょう。

2 段階の 「チェック&トライ」 で学習内容を 確実に定着！

●基礎・基本を確認する「**チェック**」と、要約や説明をする言語活動の「**トライ**」の2段階で「**学習課題**」を解決。学習内容が確実に定着します。

課題を解決する 単元のまとまりを重視した紙面構成③

思考力・判断力・表現力を高めるまとめの活動

「見方・考え方」を働かせる活動をマークで明示

●「見方・考え方」を働かせる活動には「見方・考え方マーク」を付しました。



「探究のステップ」で探究課題の解決をサポート

●「探究課題」の解決を補助する問いの「探究のステップ」を設けました。

●単元全体を貫く「探究課題」と1時間ごとの学習とをつなぐ「踊り場(ステップ)」の問いとして、円滑に課題解決につなげます。

思考を整理する多様なツールを提示

●思考の整理に適した多彩な思考ツールを提示しました。

●主体的に思考・判断した内容を適切に表現する力が身に付きます。

●思考ツールの主な掲載箇所

地理教科書	思考ツール
p.31	ベン図
p.113	くらげチャート
p.178	フィッシュボーン
p.207	トゥールミン図式
p.231	ランキング
p.255	ウェビング

まとめの活動

日本の地域的特色を伝えよう

見方・考え方

ここまで、日本の地域的特色を学習してきました。日本という国が、どのような特色を持った国かについて、導入の活動で考えたことを基にまとめ、説明しましょう。

探究のステップ

(1)導入の活動(p.156～157)で、自分が「日本はどのような特色を持った国か」という疑問に対する説明に使うために挙げた内容を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の四つに分類して整理しましょう。当てはまらないものは「その他」にしましょう。

(2)(1)で整理した内容から、「地域」や「分布」が明確で、地域的特色の説明に使いやすいものを選び出しましょう。

みんなでチャレンジ

(1)この章の学習をふり返って、日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の四つ内容で整理しましょう。

○下のひろとさんがまとめた図を参考に、「日本の特色」を左に置き、四つの分類ごとに、上の「探究のステップ」で整理した内容や、それ以外にこの章で学習した内容を、それぞれの空欄の上書きこみましょう。

○書きこんだ内容について、それぞれの内容が分布している地域や特色、その分布が見られる背景を、空欄の下に書きこみましょう。

○グループでそれぞれの図を発表し合い、自分に足りない内容があったら書き加えましょう。

●ひろとさんがまとめた図(途中のもの)

日本の地域的特色	< 自然環境 >	< 人口 >
	地震や火山が多い ・日本全体が変動帯にあるから	
	火力発電がエネルギーの中心 ・燃料を輸入しやすい沿岸に分布	新幹線で大都市間が結ばれている ・東京を中心に放射状にのびる
	< 資源・エネルギーと産業 >	< 交通・通信 >

(2)(1)でまとめた図を基に、次のような、日本を正しく理解しないまま帰国してしまった外国人に、誤解を解くための短い手紙を書きましょう。

○生まれてから一度も地震を経験したことのないスウェーデン人が、日本に来ていたときに地震が起こり、日本は「こわい国」だという印象を持って帰国した。

・日本の「自然環境」の地域的特色である「自然災害」について、左の資料を参考にして、このスウェーデン人の誤解を解く手紙を書きましょう。

日本は確かに地震が多い国です。でも、

○仕事で日本を訪れた、ニューヨークに住んでいるアメリカ人が、東京の都心とホテルとを往復するだけだったため、日本には自動車が多く、建物が密集している、緑が少ない国だと考えて帰国した。

・日本の「人口」の地域的特色である、「過密」の印象だけを持って帰国したこのアメリカ人に対して、この章の資料をどれか一つ選んで、誤解を解く手紙を書きましょう。

東京は大都市で、ニューヨークとあまり変わらないかも
しれません。でも、

?

探究課題を解決しよう

探究課題 日本には、なぜさまざまな地域的特色があるのでしょうか。

↓

「日本はどのような特色を持った国か」は、地域や分布に注目すると説明できそうだよ。

探究課題について、日本に初めて来た外国人に日本を紹介する手紙の形でまとめよう。

日本という国は、

キャラクターの会話の流れで探究課題を解決

●生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントを示しています。

●先生キャラクターとの会話で、「見方・考え方」を活用した探究課題の解決を促します。

単元のまとまりを重視した紙面構成④

「問いの構造図」で実現する課題解決的な学習

「問いの構造図」とは？

単元のまとまりを意識した「深い学び」につなげるには、学習内容の深い理解を意識した単元を貫く問いの設定が欠かせません。この教科書は、単元を貫く「探究課題」の設定から解決に至る流れを、「問い」を軸に『構造化』しました。これにより、1時間ごとの授業が段階的に「探究課題」の解決につながるよう構成されています。その単元の構造を視覚的に示したものが「問いの構造図」です。※「問いの構造図」は「新しい社会 地理 教師用指導書」に掲載予定です。

課題をつかむ

単元の導入部の「導入の活動」を受けて、単元で働かせる「見方・考え方」を丁寧に示し、単元を貫く「探究課題」を設定することで、課題をつかみます。

見方・考え方

人々の暮らしは、生活している場所の環境と、どのように関係しているのでしょうか。この章では、「人間と自然環境との関係(相互依存作用)」に着目して学習しましょう。

探究課題

人々の暮らしは、なぜ場所によって異なっているのでしょうか。

33ページでは、服装のちがいに気づきましたね。こうしたちがいはどこからくるのでしょうか。

単元のまとめでは、世界各地の生活を体験する世界一周旅行を企画するので、そのつもりで学習を進めましょう。

理科：地軸の傾きと季節の変化 ▶

35

(p.35)

導入

課題を追う

1時間ごとの学習のめあてである「学習課題」を提示し、基礎・基本を確認する「チェック」と、要約や説明などをする「トライ」の2段階の問いで、各時間の学習課題を解決していくことで、探究課題の追究を進めます。

2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々

冬気温がかなり低いシベリアで、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

学習課題

冬気温がかなり低いシベリアで、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

チェック

シベリアの冬の寒さを防ぐ工夫を、本文からぬき出しましょう。

トライ

シベリアでの人々の暮らしと、自分たちの暮らしとを比較して、共通点やちがう点を説明しましょう。

(p.38)

(p.39)

展開

課題を解決する

「まとめの活動」で、探究課題の解決を補助する「探究のステップ」に取り組み、「見方・考え方」を働かせながら探究課題の答えを考えることで、無理なく課題を解決します。

探究課題を解決しよう

探究課題 人々の暮らしは、なぜ場所によって異なっているのでしょうか。

世界各地で、人々がさまざまな生活をしている理由は、その場所の環境に着目すると説明できそうだよ。

生活のちがいは、環境だけに影響されているわけでもなさそうだね。

探究課題について、人間と自然環境との関係(相互依存作用)などに着目して、自分の言葉でまとめましょう。

(p.52)

まとめ

単元を貫く課題の提示

1時間ごとの問い(学習課題)の提示

学習課題の解決

解決を補助する問いの解決

単元を貫く課題の解決

第1章 世界各地の人々の生活と環境

p.33～53

探究課題

人々の暮らしは、なぜ場所によって異なっているのでしょうか。

p.35

1 雪と氷の中で暮らす人々

p.36～37

雪と氷におおわれている地域で、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々

p.38～39

冬の気温がかなり低いシベリアで、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

5 常夏の島で暮らす人々

p.44～45

一年中気温が高い地域で、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

6 標高の高い土地に暮らす人々

p.46～47

標高の高い地域で、人々はどのような生活をしているのでしょうか。

チェック

寒帯の自然環境の特色を、本文からぬき出しましょう。

トライ

イヌイットの人々の生活の変化について、衣食住のうちの一つに着目して説明しましょう。

チェック

シベリアの冬の寒さを防ぐ工夫を、本文からぬき出しましょう。

トライ

シベリアでの人々の暮らしと、自分たちの暮らしとを比較して、共通点やちがう点を説明しましょう。

チェック

サモアの伝統的な暮らしの知恵を、本文からぬき出しましょう。

トライ

サモアの人々の生活の変化について、衣食住のうちの一つに着目して説明しましょう。

チェック

3のクスコの雨温図を、44ページ3のアピアの雨温図と比較して、共通点やちがいを考えましょう。

トライ

高山地域の標高の高さに着目して、人々の生活の工夫を説明しましょう。

探究のステップ

寒帯と冷帯とで、人々の生活がどのようにちがうか、自然環境に着目して説明しましょう。

p.39

探究のステップ

標高の低い熱帯と、同じ緯度の高山地域とで、人々の生活がどのようにちがうか説明しましょう。

p.47

探究課題

人々の暮らしは、なぜ場所によって異なっているのでしょうか。

p.52

先生のカリキュラム・マネジメントをサポート！ 他分野や他教科とつなげて学びを深める

歴史・公民の関連ページに 直接リンクした二次元コード

●教科書の二次元コードを読み取ると、インターネットを使って**歴史や公民の関連ページの紙面を直接見ることができます。**

分野関連マーク

歴史や公民の学習内容と特に関連が強い内容に付けています。

地理 (p.26～27)

SCAN!



4 北方領土・竹島と尖閣諸島

領土をめぐる問題をかかえる島々は、どのような地理的特色を持っているのでしょうか。



竹島は、島根県隠岐郡の島に属し、隠岐島の北西、約150kmに位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。竹島は、日本海中央にある海中の巨大な台地のふちに位置し、標高168mの男島(西島)と、標高97mの女島(東島)を中心に、いくつかの島で構成されています。もともと古い海底火山の噴火でできた島でしたが、周囲が波に侵食(p.280)され、現在のような断崖に囲まれた地形になりました。竹島周辺の海は、東シナ海から流れてくる暖流の対馬海流と、樺太(サハリン)から流れてくる寒流のリマン海流とがぶつかる潮境(p.280)に近いため、かに、やいかに、あじなどの回遊魚といった、豊富な漁業資源にめぐまれています。

26

貴重な自然が残る北方領土



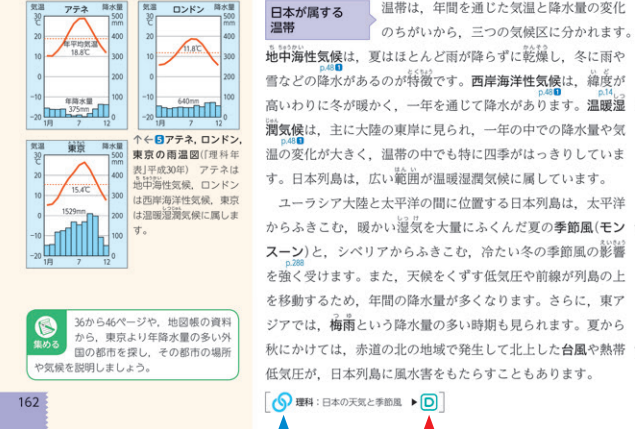
北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土とよばれ、樺室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。北方領土は、カムチャツカ半島から北海道まで連なる島々の南に位置しており、北海道東部の新沙布岬と、歯舞群島の距離の最長距離とは、約4kmしかはなれていません。歯舞群島は平坦な島々が多く、その北東にある色丹島も標高が低い一方、国後島や択捉島は大きな島です。なかでも択捉島は、日本の領土の中で、本州などの主要四島以外では最大の島です。これらの島々には、草原や冷帯特有の植物が広がっています。一年を通して気温が低いため、標高が低い場所にも高山植物が見られ、こうした貴重な自然環境の保護が必要です。また、北方領土には活火山もあり、国後島北部の船橋山は、標高1772mの北方領土の最高峰で、1973(昭和48)年の噴火では、北海道の東部に火山灰が降りました。一方、歯舞群島や色丹島、国後島、広い大陸棚に囲まれており、からふとすやさなどの、豊富な漁業資源にめぐまれています。

27

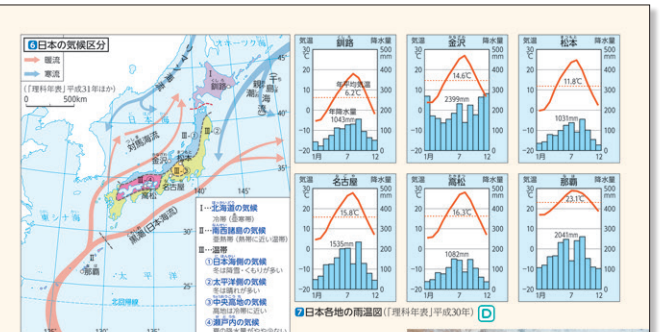
公民 (p.184)



2 気候から見た日本の特色



162



地域によって異なる日本の気候

南北に長い日本列島は、地域によって気候が大きく異なります。冬でも気温が高く、降水量が多い南西諸島や小笠原諸島の気候は、温帯の中で亜熱帯とよばれ、沿岸にはさんご礁が広がっています。一方、北海道は梅雨がなく、年間の降水量も少ないうえに、冬の気温がかなり低いため、冷帯(亜寒帯)に属します。日本列島は、中央の山脈を境にして、太平洋側と日本海側に大きく分けられ、特に冬の天候が異なります。シベリア上空の冷たくかわいた空気は、季節風になって暖流の対馬海流が流れる日本海で水蒸気を大量にふくみ、日本海側の地域に雨や雪を降らせま。中央の山脈をこえた季節風は水蒸気が少ないため、太平洋側ではかわいた風がふいて晴天が続きます。瀬戸内は、中国山地と四国山地にはさまれ、太平洋や日本海からの水蒸気が届きにくいので、降水量が少ない地域です。夏に干ばつが起こりやすく、稲作などに使う水を確保するために、古くからため池が造られてきました。中部地方の中央高地は、標高が高く山に囲まれているため、年間を通して気温が低く、降水量が少ない地域です。中央高地では、特に夜間や冬の気温が低いため、昼と夜、夏と冬の気温差が大きくなります。

163

教科関連マーク

他教科と特に関連の強い内容に付けています。

- 新しい社会 地理
- 160 ページ 地理院地図へのリンク(広島市の三角州)
- 162 ページ 理科 日本の天気と季節風
- 163 ページ どの気候がわかるかな?(日本編)

地図帳とも連携

●「新しい社会 地図」は、地理だけでなく歴史や公民の学習にも使える資料を多数掲載し、教科書準拠の社会科資料集のようにお使いいただけます。▶地図帳のパンフレットp.8～9



理科 (2年:p.212)

他教科の関連ページが見られるDマークコンテンツ

●教科関連マークにDが付いている内容は、インターネットを使って**関連する教科の教科書紙面を見ることができます。**

●他教科関連マークの掲載箇所

地理教科書	教科・分野	関連する学習内容
p.23	数学	正負の数の加法、減法
p.35	理科	地軸の傾きと季節の変化
p.76	理科	大気の動きと天気の変化
p.150	技術	安全に利用するための情報モラル
p.162	理科	日本の天気と季節風
p.164	理科	地震に備えるために
p.167	保健体育	自然災害による傷害の防止
p.167	道徳	田老の生徒が伝えたもの
p.170	理科	エネルギー資源の利用
p.244	保健体育	国際的なスポーツ大会の役割

カリキュラム・マネジメント

現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成

SDGsから現代的な諸課題を読み解く

国連が2030年までに達成を目指す『持続可能な開発目標(SDGs)』を取り上げ、現代的な諸課題を理解し、課題を解決しようとする態度を養います。

情報と技術の役割を考える

ICT(情報通信技術)の飛躍的な進化によって、課題の克服を目指す世界や日本の取り組みを扱い、現代的な諸課題の解決に情報や技術が果たす役割を考えさせます。

もって地理

情報化がアフリカ社会を変える

情報化の進展によって、アフリカにはどのような影響が見られるか考えましょう。

急速に普及するスマートフォン

世界で電話での通信の変化を見ると、以前は電話回線に電話器をつなげて利用する固定電話が中心でした。しかし、1990年代半ばごろから無線の携帯電話が急速に増加し、現在では、電話以外にさまざまな機能をもつスマートフォンが主流になっています。携帯電話は、固定電話のような回線網を必要としないため、アフリカなどの発展途上国でも急速に普及が進んでいます。

アフリカで成長するICT産業

これまでは、先進国を中心にICT(情報通信技術)産業が発展し、インターネットなどが普及してきました。しかし近年では、新しい普及先を求めて、先進国などの通信事業者がアフリカに進出しています。アフリカで情報化が進んだことで、金融や医療などの分野での産業の発展や、人々の生活改善が始まっており、「モバイル革命」が起こっています。

変化する人々の生活

スマートフォンのさまざまな機能によって、アフリカでは人々の生活が変化しています。ケニアでは、電子マネーシステムの(M-PESA)が普及し、銀行口座やクレジットカードがなくても、送金や支払いができるようになっています。この仕組みを使うことで、例えば、都市へ出かけに行った人が、銀行口座を作らなくても、給料の一部を家族へ送金することや、公共料金を支払うことが簡単にできるようになりました。スマートフォンの普及によって、現金を使わないお金のやりとりが可能になったことで、人々の生活は大きく変化しています。またスマートフォンは、農業を行うために有効な情報や病気の対策に関する情報などの提供手段としても重要になっています。

三つの資料や本文から、ケニアと日本人の生活のちがいを読み取りましょう。

アフリカでの急速な情報化の理由を、アフリカ内や他の州との結び付きに着目して説明しましょう。

導入の活動 SDGsから「地球的課題」を考えよう

世界の各州の学習では、その州がかかえるさまざまな課題に着目しながら学習を進めていきます。テーマを決める前に、ヒントになる、「持続可能な開発目標(SDGs)」を見てみましょう。

地理にアクセス SDGsとは？

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)は、2015(平成27)年に、国際連合(国連)で採択されました。2030年までに、解決すべき、次のような17の目標(ゴール)が示されています。

1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 健康と福祉 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

Dマークコンテンツ：持続可能な開発目標(SDGs)

edu town SDGs

教科書を貫く五つのテーマ

環境 エネルギー

防災 安全

情報 技術

人権 平和

伝統 文化

防災・安全の意識を高める

地震・津波や台風、河川の氾濫、火山の噴火など、多くの自然災害の実例や防災への取り組みを扱い、生徒の主体的な防災・減災への意識を高められます。

伝統や文化を尊重する

地理的特色を背景にした伝統文化や郷土料理などを多数取り上げ、日本や郷土を愛し、尊重する態度を育てます。

3 自然災害と防災・減災への取り組み

日本にはどのような自然災害が起こり、防災の取り組みがどのように行われているのでしょうか。

さまざまな自然災害

自然は人間に恵みをあたえる一方で、災害をもたらします。地震や火山の噴火、洪水は自然現象ですが、人間が被害を受けることがあります。大きな地震は、ゆれとともに、土砂くずれや地盤の液状化などの災害を引き起こします。震源が海底の場合は、津波が起こることもあります。このうち大規模なものは、東日本大震災のように日本列島の広い範囲でさまざまな災害を同時に引き起こし、大きな影響をおよぼします。一方、火山の噴火は、溶岩や火山灰、火山れきの噴出や、火砕流の発生で被害をあたえます。日本では、梅雨や台風による長く続く大雨で、河川の水があふれたり、土砂くずれや土石流などが起こったりします。強風や高潮、夏の低温で作物の生育が悪くなる冷害、雨が少ない年に起こる干害、山岳地域などで起こる雪崩といった災害もひんぱんに起こっています。ふだん雪の降らない地域での大雪は、交通や物流の混乱や、集落の孤立といった被害をもたらします。

被災地へのさまざまな支援

自然災害が発生した場合、電気や水道といったライフラインの復旧が重要です。そこ

国連の防災・減災の取り組み

国が都道府県や市区町村などと協力して被災者を保護するために、災害救助法が定められています。この法に基づいて、避難所や仮設住宅の整備、生活物資の供給、医療活動などが行われ、必要場合は、都道府県知事などが自衛隊に派遣要請を行うこともできます。ボランティアの支援も被災地の復旧や復興を後押しします。東日本大震災などの大きな災害では、全国各地からのこうした支援が、被災地の人々を支えました。

防災対策と防災意識

気象衛星や国内での観測網の整備によって、これまでより細かい地域や短時間での気象予報が可能になり、火山の噴火や地震の危険を予測する研究も進められています。また、山地や河川でのさまざまな調査に基づいて、地域ごとに土砂くずれや洪水の被害が予想されています。こうした予想を基に、国や都道府県、市区町村は防災計画を立て、堤防などを整備して災害が起こりにくくする努力をしています。また、防災マップ(ハザードマップ)を作ることなどで、災害が起こったときの対策も進められています。このように、さまざまな防災対策が行われていますが、対策だけでは災害は防げません。東日本大震災をきっかけに、都道府県や市区町村、住民の防災・減災への取り組みは変化しており、身近な地域で起こる可能性がある災害をよく知り、日頃から防災活動に取り組み、災害時に適切な行動をすることが重要です。

防災・減災の意識を高める

地震が引き起こす、さまざまな災害の種類を挙げましょう。

災害時の、(1)学校、(2)自宅、(3)外出先にいる場合の具体的な行動を整理しましょう。

農家の生活と結び付いた夏祭り

東北の各県では、8月上旬のほぼ同じ時期に、大規模な夏祭りが行われます。秋田県で開かれる竿燈まつりは、提灯を米俵に見立てて練り歩き、豊作をいのる祭りです。この祭りは、農作物の病気や害虫を防いでいます。こうしたさまざまな祭りは、地域の伝統に根差しながら、近年では観光資源としての役割が強くなってきています。

気候に応じた食文化

東北では、さまざまな漬物が保存食として作られてきました。特に、日本海側の秋田県や山形県では、雪が降り積もる冬には外出が難しかったため、地域で収穫される農作物で漬物が作られてきました。秋田県の代表的な漬物のいぶりがっこは、囲炉裏の上につるしてけむりでいぶした大根を、米ぬかや塩でつけたものです。雪が多く、屋外での乾燥が難しかったために、囲炉裏を使っていたといわれています。囲炉裏が使われなくなった現在も、秋田県の伝統的な食文化の一つとして、人々に親しまれています。

いぶりがっこの仕込み作業

現在では、専用の小鍋の中で火をたき、大根をいぶすことが多くなっています。(秋田県横手市 2017年)

身近な地域に誇る伝統的な食文化を、製法などの特色の背景を調べましょう。

楽しく身に付く，しっかり身に付く 地理学習への興味・関心を高める新しい工夫

二次元コードで「地理院地図」に簡単アクセス！ 地図や地形への興味・関心を高めます

- 地形を学習するページでは，地形図とともに国土地理院の電子地図「**地理院地図**」に簡単にアクセスできる二次元コードを掲載しました。
- 電子地図の活用によって，生徒の地形や土地利用への理解をさらに深め，地理への興味・関心を高めます。
- 地理学習での電子地図の活用は，**高等学校の必修科目となる「地理総合」のGIS（地理情報システム）学習への橋渡し**にもなります。

SCAN!



* 弊社のウェブサイトを経由いたします。



①扇状地（山梨県甲州市・笛吹市 2016年）



③写真①周辺の地形図（2万5000分の1「石和」平成28年発行）



②三角州（広島県広島市 2014年）



④写真②周辺の地形図（5万分の1「広島」平成20年発行を50％に縮小している）

(p.160)

新コーナー『資料から発見！』で 資料の読解力を確実に身に付け鍛えます

- 特設ページ『資料から発見！』を新設し，写真やグラフ，地図などの資料を読み取る力を確実に身に付け，資料の読み取りを通して思考力・判断力・表現力を鍛えられるようにしました。
- 第1学年で学習する「世界の諸地域」の各州ごとに，計6ページにわたって掲載しました。
- 段階的に技能を高められるように，鍛える力を系統的に並べるとともに，後半には「実践編」を設けました。

●新しい社会 地理『資料から発見！』一覧	
資料を活用する力をきたえよう①	p.71
資料を活用する力をきたえよう②	p.85
資料を活用する力をきたえよう③	p.97
資料を活用する力をきたえよう④	p.111
資料を活用する力をきたえよう(実践編①)	p.123
資料を活用する力をきたえよう(実践編②)	p.135

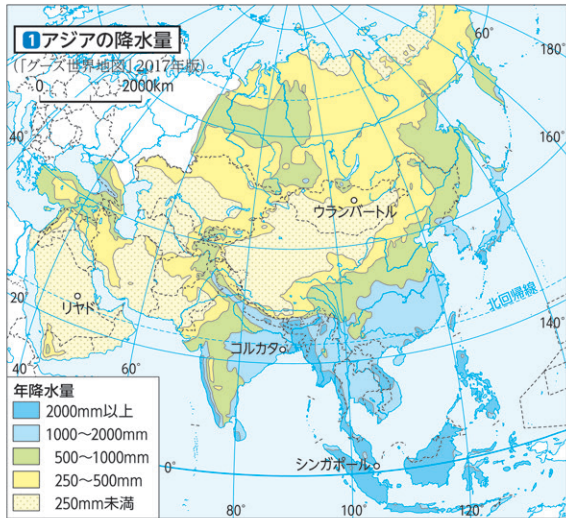


資料を活用する力をきたえよう①

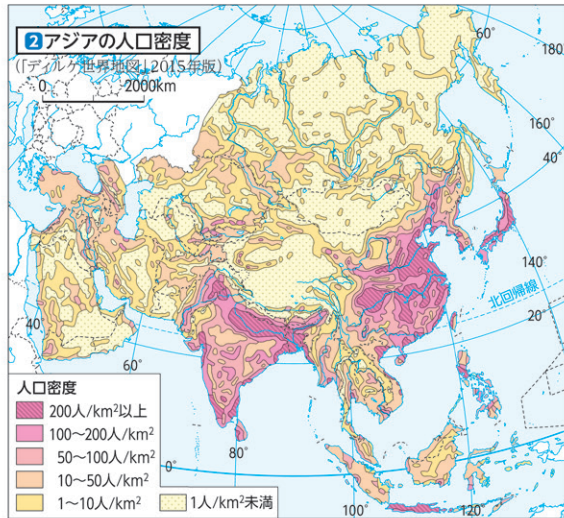


社会科の学習では，多くの写真や地図，グラフなどの資料が出てきます。地理では，それぞれの資料は，その資料に関係する地域の様子や課題を表しており，こうした資料を読み取って考えることで，その地域の特色をとらえることができます。ここでは，アジア州の学習で出てきた資料を使って，これまでの「地理スキル・アップ」で身に付けた技能も生かしながら，資料を読み取る力や，考える力，説明する力をきたえていきましょう。

資料を比較して考える



●アジアの降水量



●アジアの人口密度

- (1) 二つの地図を比較して，アジアの人口と降水量には，どのような関係があるか考えましょう。
- (2) (1)で考えた関係になっているのはなぜか，アジア州の学習を思い出して予想しましょう。

降水量が多い地域には，どのような影響があるのかな。



資料を結び付けて考える




(p.71)

つまずきポイントの理解を助けて学力向上！ 豊富なデジタルコンテンツ

東京書籍が実施する「標準学力調査」で正答率が低く、生徒がつまずきやすい学習内容の理解を助けるために、デジタルコンテンツ(Dマークコンテンツ)を豊富に用意しました。

「Dマークコンテンツ」とは？

 この「Dマーク」を示した箇所では、シミュレーションや動画など、**学習への興味・関心を高めることができる「Dマークコンテンツ」を用意しています。**教科書5ページのURLから二次元コードからアクセスでき、**生徒の家庭学習でも活用できます。**

こちらの二次元コードからも、全てのDマークコンテンツをご覧になれます。



学力調査の傾向①

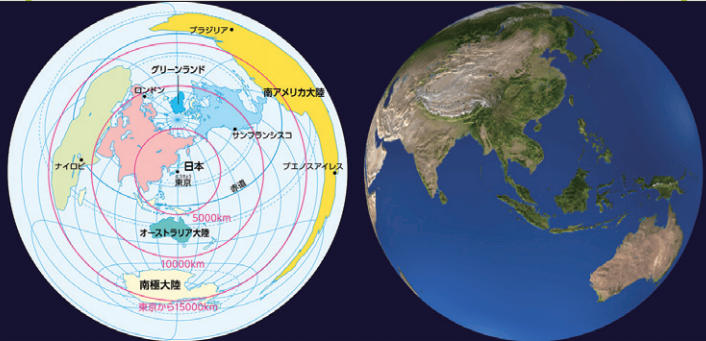
地図の読み取りがつまずきポイントになっており、例えば、**正距方位図法**の理解をもとに地球儀の読み取りを行う問題の正答率は**59.5%**でした。
(2018年 標準学力調査3学期版 中学校社会1年)

学力調査の傾向②

時差の理解がつまずきポイントになっています。例えば、日本と他国のある地点との時差を問う問題の正答率は**63.7%**でした。
(2018年 標準学力調査3学期版 中学校社会2年)

つまずきに対応した
Dマークコンテンツ
で学力を
向上させます

Dマークコンテンツ



さまざまな地図を比べる

もどる 次へ

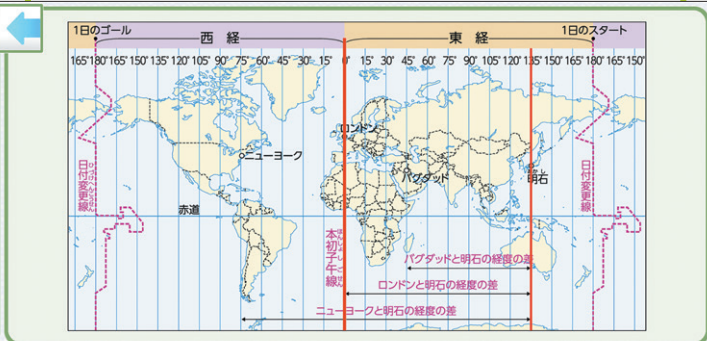
Dマークコンテンツ

さまざまな地図を比べる

正距方位図法をはじめ、さまざまな図法の地図と地球儀とを比べて見ることで、地図の読み取りへの理解を高めます。



Dマークコンテンツ



スキル・アップ6 時差の調べ方

答え もどる 次へ

Dマークコンテンツ

時差の調べ方

時差の調べ方についてのシミュレーションや練習問題で、時差の概念の確実な理解を促します。



特別支援教育への対応など、充実した機能が満載！ デジタル教科書・教材①

中学校デジタル教科書・デジタル教材のご紹介▶



学習者用デジタル教科書

文部科学省は、2019年末に「GIGAスクール構想」を打ち出し、ハード・ソフト・指導体制一体でのICT教育の充実を推進しています。東京書籍は、令和3年度用中学校教科書の全発行書目において「学習者用デジタル教科書」を発行します。

1 複数の教科を一括管理

東京書籍をはじめ複数の発行者が採用するビューア「Lentrance Reader」を用いています。**さまざまな教科・教材を一括管理**できます。



2 学習を支える便利な機能

教科書に、ペンツールで自分の考えを書き込んだり、ウェブ上の参考資料へのリンクを貼り付けたりすることができます。学習記録としてそのまま保存することもでき、生徒の主体的な学びを支えます。また、**教科書のDマークをクリック**して、連携するデジタルコンテンツを利用することができます。



3 特別支援教育への対応

文字の色や大きさ、行間などを読みやすいように調整したり、写真や図版などを拡大したりすることができます。また、本文を読み上げたり、総ルビ・分かち書きで表示したりする機能は、弱視や発達障害のある生徒だけでなく、**急増する帰国・外国人生徒など、日本語を読むことが苦手な生徒の学びを助けます。**

文字色や大きさ、背景色を自由に
変える機能があります！

1970年代末まで、中国の農業や工業は政府の計画に沿って生産が行われていましたが、発展につながりませんでした。そこで、1980年代から改革が進められ、**シェンチェン（深圳）**や**アモイ**などに、**外国企業を受け入れる経済特区**を設けたり、**シャンハイ（上海）**や**ティエンチン**など、**外国の企業と共同で経営する工場**を造ったりして、工業化を進めました。

Dマーク
デジタル教科書

※これらの商品は企画中のため、内容・仕様が変更になる場合があります。

特別支援教育への対応など、充実した機能が満載！ デジタル教科書・教材②

「新しい社会 地理」学習者用デジタル教材

動画やシミュレーションなど、生徒一人一人の主体的・探究的な
学びに有効なコンテンツを多数収録しています。

●デジタル教科書+教材一体型

教科書と教材(コンテンツ)が一体とな
っています。教科書上に配置されたボ
タンから関連するコンテンツを呼び出
すことができます。

●教材単体

教材(コンテンツ)のみを収録してい
ます。「学習者用デジタル教科書」が先
に導入されている場合に、追加して「学
習者用デジタル教材(教材単体)」を導入
していただくと、自動的に教科書と教材が
リンクし、連動させてお使いいただけ
ます。



指導者用デジタル教科書(教材)

●デジタル教科書+教材一体型

電子黒板を使用した指導に最適な提
示型教材です。多様なコンテンツを収
録しており、教科書上の写真や図版、
アイコンなどをクリックするだけの簡
単な操作で利用できます。また、教科
書の素材や関連するコンテンツを使っ
てオリジナル教材を作成できる「MY教
科書エディタ」機能も搭載しています。



先生のご指導や生徒の学びを支える 教師用指導書・教科書準拠教材

「新しい社会 地理」教師用指導書・付属DVD-ROM

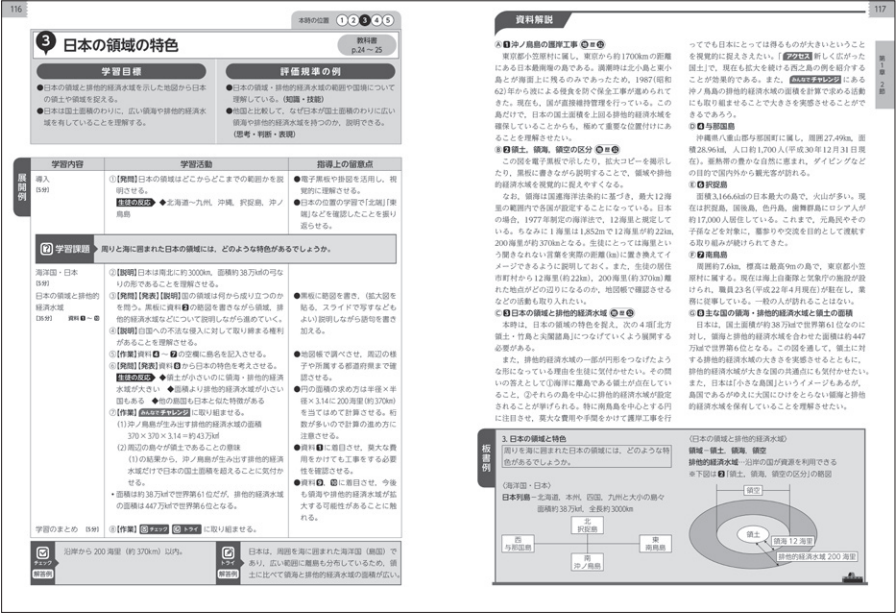
授業展開や評価のポイントなど役立つ情報満載の「指導展開編」

- 全国の先生方の授業実践の成果を積極的に取り入れ、実際の授業を想定した展開や、指導・評価のポイントを具体的に示しました。
- 「指導展開編」では、教科書での1単位時間の展開例に、学習課題の提示場面や、予想される生徒の反応を示し、初任の先生でも授業展開を具体的にイメージできるようにしました。また、「指導書の使い方」ページを新設しました。
- 「問い」を軸にした単元の構造化を視覚的に捉えられる、「問いの構造図」を単元ごとに掲載しています。

特別支援教育に対応した 付属DVD-ROM

- 教師用指導書付属のDVD-ROMに、総ルビ・分かち書きで表示された教科書紙面PDFを収録し、日本語を読むことが苦手な生徒の学びや、特別支援教育に対応しています。
- DVD-ROMに収録される主なコンテンツ(予定)
 - ・年間指導計画
 - ・評価問題
 - ・教科書本文テキスト
 - ・教科書図版集
 - ・ワークシート
 - ・総ルビ・分かち書きの教科書紙面PDF

指導展開編のイメージ▶



「新しい社会 地理」基礎・基本徹底ワーク

- 教科書の章・節での学習の流れに沿った構成と、教科書に掲載している本文や図版を使用した問題で、基礎・基本を無理なく定着させます。
- 「基本事項をまとめよう」→「問題にチャレンジ」→「演習問題」→「総合問題」の流れで、基礎・基本の内容をくり返し学習でき、実践的な力も身に付きます。
- 「問題にチャレンジ」「演習問題」「総合問題」では、小問ごとに評価の観点のどれに該当するかを明示し、日常的な評価にも活用できます。



※これらの商品は企画中のため、内容・仕様が変更になる場合があります。